

「ステパノの逮捕」

使徒6：8～15

1. はじめに

(1) 問題解決のために、食卓のことに仕える人が7人選ばれた。

- ①その中で最も重要なのは、ステパノである。
- ②ステパノは、使徒の働きの物語の岐路に立つ人物である。
- ③物語の主演は、ペテロからパウロに移行して行く。
- ④宣教地は、イスラエルの地から地の果てに移行して行く。
- ⑤その移行のきっかけとなる人物が、ステパノである。

(2) 使6章と7章の流れ

- ①ステパノの逮捕
  - ②ステパノの弁明
  - ③ステパノの殉教者の死
- \*最後に、パウロが登場する。

2. アウトライン

- (1) ステパノの奉仕 (8～10 節)
- (2) ステパノの逮捕 (11～12 節)
- (3) ステパノを訴える偽証人たち (13～15 節)

結論：神殿から会堂（シナゴグ）へ

ステパノの逮捕について学ぶ。

I. ステパノの奉仕 (8～10 節)

1. 8 節

Act 6:8 さて、ステパノは恵みと力とに満ち、人々の間で、すばらしい不思議なわざと  
しを行っていた。

(1) ステパノの本来の賜物は、伝道者のそれである

- ①彼は、「恵みと力とに満ち」て奉仕をしていた。

(2) 彼の働きは、使徒たちのそれに非常に似ている。

- ①「人々の間で、すばらしい不思議なわざとらししを行っていた」
- ②不思議なわざとらししは、使徒たちの権威と信頼性を証明するものである。

③使徒たち以外に、不思議としるしを行っていた伝道者が例外的に2人いた。

\*ステパノとピリポ

Act 8:6 群衆はピリポの話聞き、その行っていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。

④この2人は、使徒たちの按手によってこの賜物を得たと思われる。

(3) ステパノは、数々のヘレニストのシナゴグを訪問し、伝道を行った。

①ナザレのイエスは、主であり救い主であるというメッセージを語った。

②当時、エルサレムを中心に480の会堂(シナゴグ)があったと言われている。

③同じ文化的背景のユダヤ人たちが集まり、各会堂を形成していた。

④そのひとつが、リベルテンの会堂である。ステパノは、そこで福音を伝えた。

## 2. 9節

Act 6:9 ところが、いわゆるリベルテンの会堂に属する人々で、クレネ人、アレキサンドリヤ人、キリキヤやアジアから来た人々などが立ち上がって、ステパノと議論した。

(1) リベルテンの会堂(リベルティノス)

①かつてローマの奴隷であったが、今は自由民となったユダヤ人たち

②親は奴隷であったが、子どもは自由民となったユダヤ人たち

③この会堂の献堂の碑文が発掘されている。

(2) この会堂には、4つのサブグループに細分化されていた。

①クレネ人

\*リビアからの帰還民

②アレキサンドリヤ人

\*エジプトからの帰還民

③キリキヤから来た人々

\*サウロの出身地タルソは、キリキヤに含まれる。

\*サウロがこの会堂のキリキヤ人グループに属していた可能性はある。

\*ステパノとサウロが神学論争をした可能性もある。

④アジアから来た人々

\*小アジアのさまざまな地区から帰還したユダヤ人たち

(3) ステパノは、リベルテンの会堂の4つのグループと議論した。

## 3. 10節

Act 6:10 しかし、彼が知恵と御霊によって語っていたので、それに対抗することができなかった。

(1) ステパノの役割と賜物

①7人の世話役のひとり

②しるしを行う人

③伝道者

④すぐれた討論者

\*「恵みと力とに満ち」(8節)

\*「知恵と御霊によって語っていた」(10節)

(2) ユダヤ人たちは、ステパノに対抗することができなかった。

①理屈で対抗できない場合は、人は力に訴える。

## II. ステパノの逮捕 (11~12節)

### 1. 11節

Act 6:11 そこで、彼らはある人々をそそのかし、「私たちは彼がモーセと神とをけがすことばを語るのを聞いた」と言わせた。

(1) 「彼らはある人々をそそのかし、」

①脅迫か買収により、偽証する人々を立てた。

②ユダヤ教では、偽証は死罪に値する。

(2) 「私たちは彼がモーセと神とをけがすことばを語るのを聞いた」

①これが偽証の内容である。

②彼らは、ステパノを冒瀆罪で追求したのである。

③ミシュナによれば、本来冒瀆罪とは「ヤハウエという神の契約の御名をみだりに口にすること」である。

④紀元1世紀になると、冒瀆罪のより広い解釈が行われていた可能性がある。

### 2. 12節

Act 6:12 また、民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、彼を襲って捕らえ、議会にひっぱって行った。

(1) 偽証人の言葉を聞いただけで、民衆と長老たちと律法学者たちは激怒した。

①彼らは徒党を組んでステパノを襲い、彼をサンヘドリンの前に立たせた。

②使徒たちは、イエスの御名で語ることを禁じられていた。

(2) イエスの弟子たちがサンヘドリンの前に立つ出来事が4度起こる。

- ①ペテロとヨハネ(4:15)
- ②使徒たち全員(5:27)
- ③ステパノ(6:12)
- ④パウロ(22:30)

### Ⅲ. ステパノを訴える偽証人たち(13~15節)

#### 1. 13節

**Act 6:13** そして、偽りの証人たちを立てて、こう言させた。「この人は、この聖なる所と律法とに逆らうことばを語るのをやめません。」

(1) 偽証人たちの糾弾内容は、後に出て来るステパノの弁明からある程度類推される。

- ①使徒たちが語った死者の復活のメッセージは、サドカイ派を激怒させた。
- ②律法は無効になったというステパノのメッセージは、パリサイ派を激怒させた。
- ③ステパノのメッセージは、ヘブル人への手紙の論旨と似たものである。
  - \*メシアの死と復活により、新しい契約の時代に入った。
  - \*御子イエスは、ユダヤ教のあらゆる人物や制度よりも優位に立つ。
  - \*メシアの死により、モーセの律法は無効になった。
- ④以上の論旨は、モーセや神殿に逆らうものではなく、正しい解釈である。

(2) ステパノを糾弾する理由は、彼がユダヤ教の土台を攻撃しているからである。

- ①神、②モーセ、③トーラー、④神殿

(3) 彼がユダヤ教の土台を攻撃しているという証言は、ユダヤ人を激怒させた。

- ①モーセに対する冒瀆(11節)
  - \*すべてのユダヤ人を激怒させた。
- ②神に対する冒瀆(11節)
  - \*すべてのユダヤ人を激怒させた。
- ③神殿に対する攻撃(13~14節)
  - \*サドカイ人を激怒させた。
- ④律法(トーラー)に対する攻撃(13~14節)
  - \*パリサイ人を激怒させた。

(4) 当時のユダヤ人社会には、政教分離という概念がなかった。

- ①ユダヤ教はそのまま政治であり文化であった。
- ②ユダヤ教を否定するステパノは、愛国心に欠けると見なされた。

## 2. 14節

Act 6:14 『あのナザレ人イエスはこの聖なる所をこわし、モーセが私たちに伝えた慣例を変えてしまう』と彼が言うのを、私たちは聞きました。」

- (1) イエス自身が、ご自身は神殿よりも偉大だと語っておられた。

Mat 12:6 あなたがたに言いますが、ここに宮より大きな者がいるのです。

- (2) またイエスは、神殿の崩壊を預言しておられた。

Luk 21:6 「あなたがたの見てこれらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」

- ①恐らくステパノは、神殿の崩壊についても語ったことであろう。

- (3) イエスの裁判では、イエスのことばが文脈を無視して引用された。

Mar 14:58 「私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三日のうちに、手で造られない別の神殿を造ってみせる』と言うのを聞きました。」

- ①イエスがステパノの見本となっている。

## 3. 15節

Act 6:15 議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は御使いの顔のように見えた。

- (1) 全員出席していたとするなら、71人の議員がいたことになる。

- ①彼らはステパノを見つめ、どういう弁明がなされるか、待った。

- (2) 「すると彼の顔は御使いの顔のように見えた」

- ①シナイ山で、モーセの顔は、神との出会いを反映させて輝いた。

Exo 34:29 それから、モーセはシナイ山から降りて来た。モーセが山を降りて来たとき、その手に二枚のあかしの石の板を持っていた。彼は、主と話したので自分の顔のはだが光を放ったのを知らなかった。

Exo 34:35 イスラエル人はモーセの顔を見た。まことに、モーセの顔のはだは光を放った。モーセは、主と話すために入っていくまで、自分の顔におおいを掛けていた。

結論：神殿から会堂(シナゴグ)へ

1. ステパノは使徒の働き of ターニングポイントに立つ人物

- (1) ペテロからパウロへ
- (2) イスラエルの地から地の果てへ
- (3) 神殿から会堂(シナゴグ)へ

2. シナゴグの歴史

(1) シナゴグは、最初はユダヤ人の集まりを意味した。

- ①それが時間の経過とともに、集まる場所を意味するようになった。
- ②「教会」も同じような経緯を辿る。

(2) バビロン捕囚(前586年)の期間に誕生したと思われる。

- ①神殿崩壊後も、ユダヤ教を維持するための方法として生まれた。
- ②シナゴグは、祈りとトーラーの学びのためのコミュニティセンターとなった。

(3) 捕囚からの帰還後

- ①イスラエルの地に帰還したユダヤ人たちは、各地にシナゴグを建てた。
- ②ディアスポラの地に留まったユダヤ人たちは、シナゴグの活動を続けた。
- ③両者にとって、シナゴグは神殿での礼拝を補完するものとなった。

(3) 紀元1世紀

- ①イスラエルの地には480のシナゴグがあったとされる。
- ②それぞれのシナゴグが、文化的均一性を保持した。

(ILL) 難破した2人のユダヤ人のたとえ話(3つのシナゴグ)

③シナゴグは、その地におけるユダヤ人の生活の中心となった。

\*イスラエルの地においても、ディアスポラの地においても、そう言える。

\*コミュニティセンター

\*礼拝、祈り、説教の場

\*冠婚葬祭の場

\*時事問題を論じる場

\*学校(成人学校、子どものための学校、改宗者のための学校)

④シナゴグは、水辺の近くに建てられた。洗礼槽のための水。

(4) 使徒の働きの中のシナゴグ

- ①シナゴグという言葉は、19回出て来る。
- ②ユダヤ人の生活と密接に結びついていた。
- ③パウロの伝道旅行のためのインフラストラクチャーとなった。
- ④ディアスポラの地では、シナゴグのそばに宿屋が建てられることが多かった。